

令和元年度 中小企業診断士第1次試験

■過去3年間の平均点の推移

	H29	H30	R01
経済学・経済政策	62.0	63.4	64.6
財務・会計	66.2	51.2	62.5
企業経営理論	53.8	53.4	56.8
運営管理	50.3	63.7	64.3
経営法務	50.1	39.8	54.2
経営情報システム	60.9	60.0	61.8
中小企業経営・政策	56.7	61.1	53.6
	57.1	56.1	59.7

■令和年度の各科目の状況（全体）

	平均点	標準偏差
経済学・経済政策	64.6点	13.7
財務・会計	62.5点	14.3
企業経営理論	56.8点	10.0
運営管理	64.3点	10.8
経営法務	54.2点	13.6
経営情報システム	61.8点	14.3
中小企業経営・政策	53.6点	10.7

	60点以上の割合	40点未満の割合
経済学・経済政策	73.3%	2.1%
財務・会計	64.8%	6.9%
企業経営理論	42.9%	5.4%
運営管理	74.8%	3.2%
経営法務	46.9%	11.5%
経営情報システム	61.1%	4.8%
中小企業経営・政策	35.9%	12.7%

	最高点	最低点
経済学・経済政策	96点	32点
財務・会計	92点	28点
企業経営理論	80点	28点
運営管理	85点	32点
経営法務	84点	16点
経営情報システム	96点	24点
中小企業経営・政策	75点	27点

■令和元年度の各科目の状況（合格基準をクリアされた方の状況）

	平均点	最高点	最低点
経済学・経済政策	72.2点	96点	48点
財務・会計	71.1点	92点	52点
企業経営理論	61.1点	80点	43点
運営管理	70.0点	85点	56点
経営法務	61.4点	84点	40点
経営情報システム	67.0点	96点	44点
中小企業経営・政策	59.2点	75点	40点

注) 当校で実施した採点サービスのデータに基づいたものであり、本試験全体のものとは異なりますので、予めご了承下さい。

《コメント》

当校の採点サービスにご参加くださいまして、誠にありがとうございました。8月10日現在の受験生の皆様のデータを集計致しました。（有効回答者のみのデータ）

単純に比較することはできませんが、令和元年度の本試験は、全体として例年並みの難度であったと考えます。

- ① 5点以上平均点が低下した科目
「中小企業経営・中小企業政策」
- ② 5点以上平均点が上昇した科目
「財務・会計」「経営法務」
- ③ 横ばいの科目

「経済学・経済政策」「企業経営理論」「運営管理」「経営情報システム」

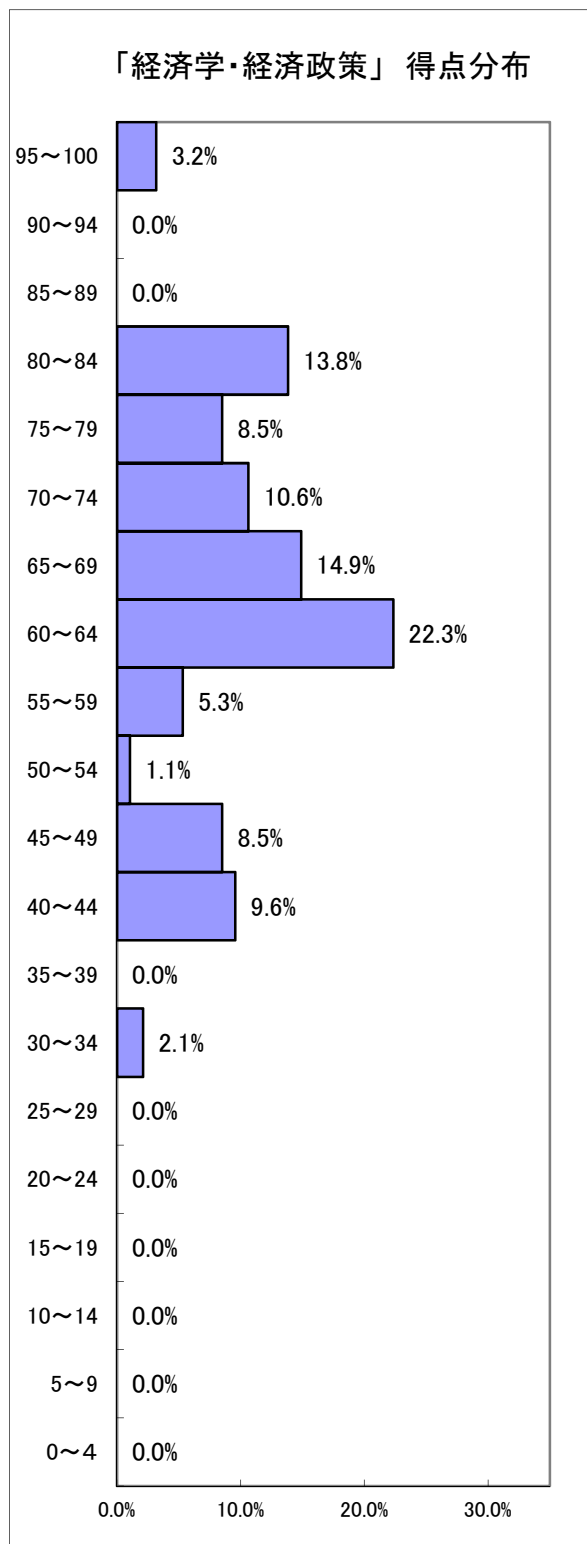
したがって、平均点の高かった「経済学・経済政策」「財務・会計」「運営管理」「経営情報システム」で、平均点の低かった科目をしっかりカバーできたかで合格が決まると考えます。

ご協力くださいました皆様、誠にありがとうございました。当校職員一同、皆様の試験合格と今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

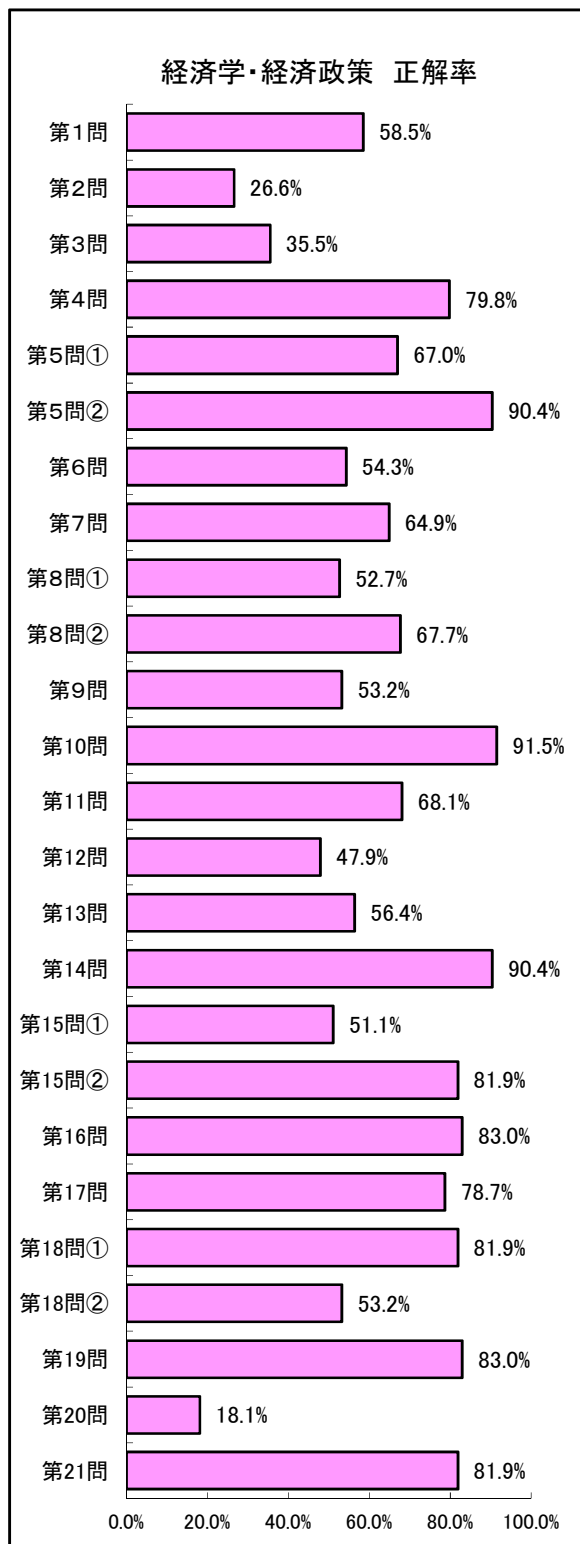
A 経済学・経済政策

平均点：64.6点、標準偏差：13.7

■ 得点分布



■ 設問別正解率



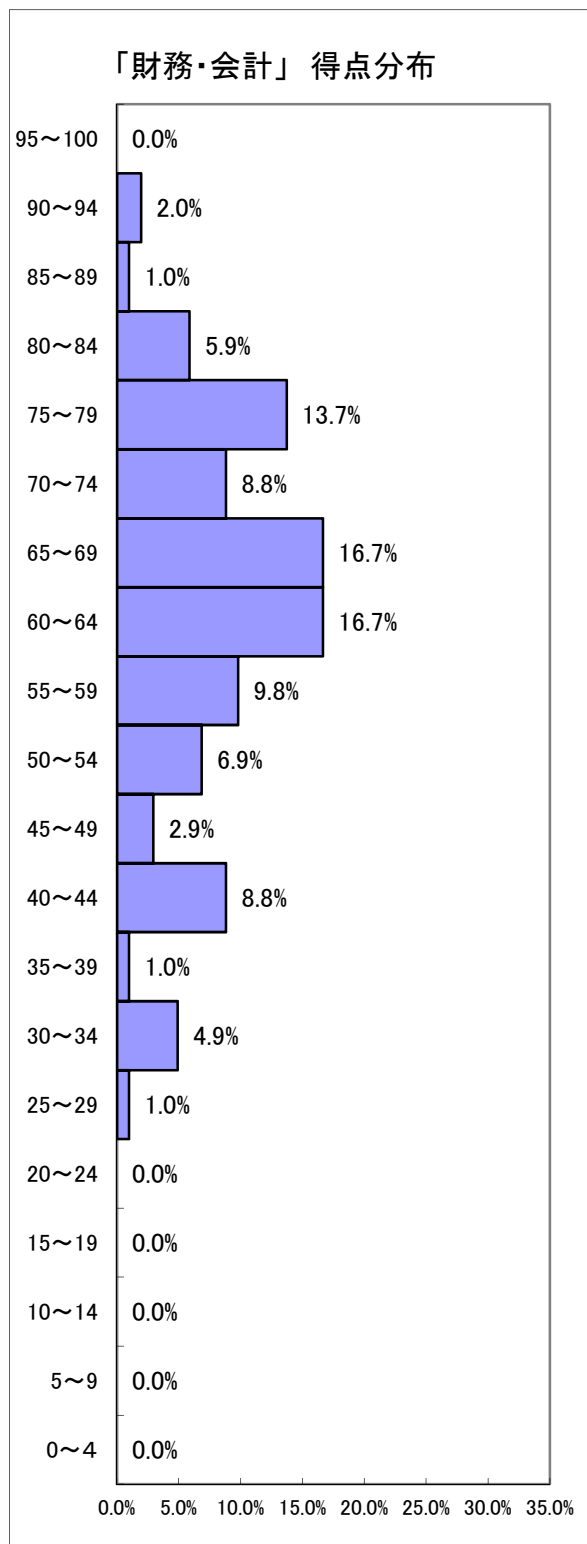
《コメント》

令和元年度の本試験は、過去18年間の設問数と同じで25問であった。また、前年度は25問中1問が5肢択一であったが、今年度はすべて4肢択一であった。難易度については、前年度と同様に、簡単に得点できる問題も多く、全体的な難易度は標準レベルであるといえる。よって、今年の問題は、過去問題を軸に演習をしっかりと取り組まれた方にとっては、合格ラインの60点は確保できたものと思われる。本科目は、マクロ経済学、ミクロ経済学から出題されており、今年度は解答数ベースで、マクロ経済学11問、ミクロ経済学14問であった。

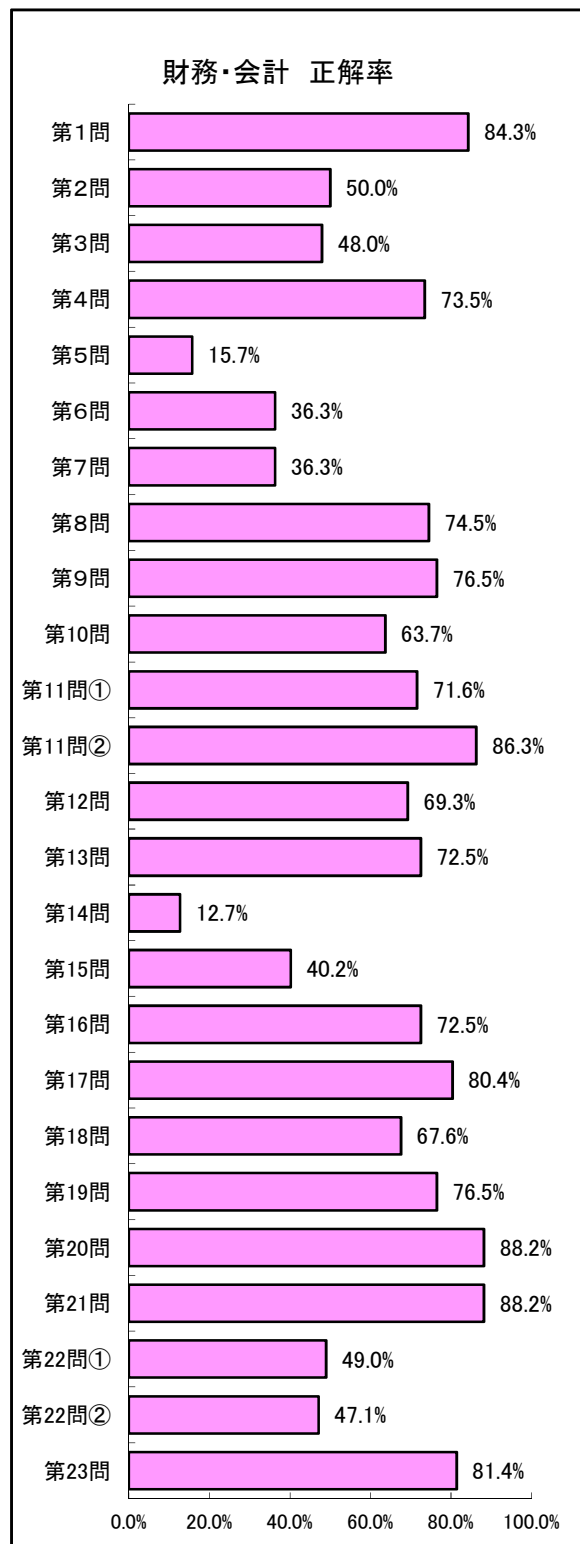
B 財務・会計

平均点：62.5点、標準偏差：14.3

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》

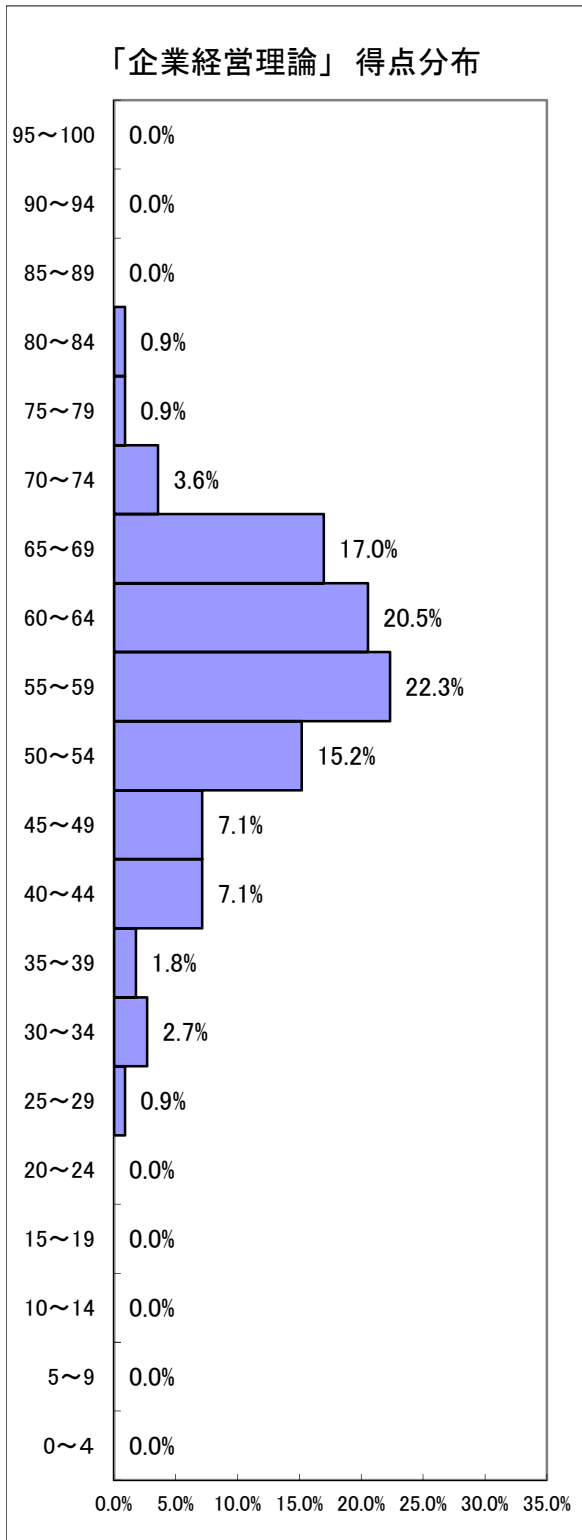
令和元年度の本試験は、問題数は23題（昨年22題）、設問数は25問（昨年25問）であった。昨年度はすべて4肢択一であったが、今年度は5肢択一の問題が1問出題された。

出題内容は会計（財務会計・管理会計等）13問（昨年13問）、財務（ファイナンス）12問（昨年12問）であり、こちらも例年どおり偏りのない出題傾向であった。全体の難易度は標準レベルであるといえる。ただし、前半の会計分野は対応が難しい理論問題も多く、後半の財務分野の問題が比較的対応しやすかったと思われる。したがって、後半で出来るだけ得点を稼ぐことができれば、合格ラインの60点を確保することができたと思われる。

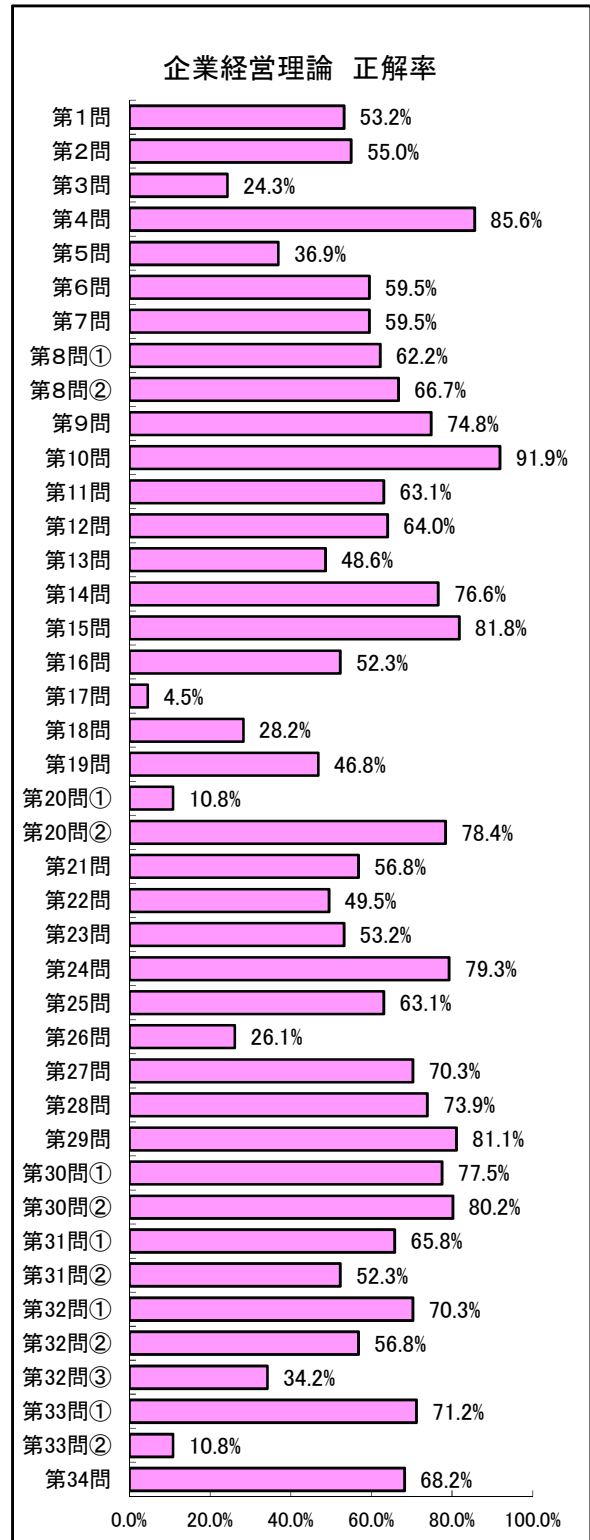
C 企業経営理論

平均点：56.8点、標準偏差：10.0

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》

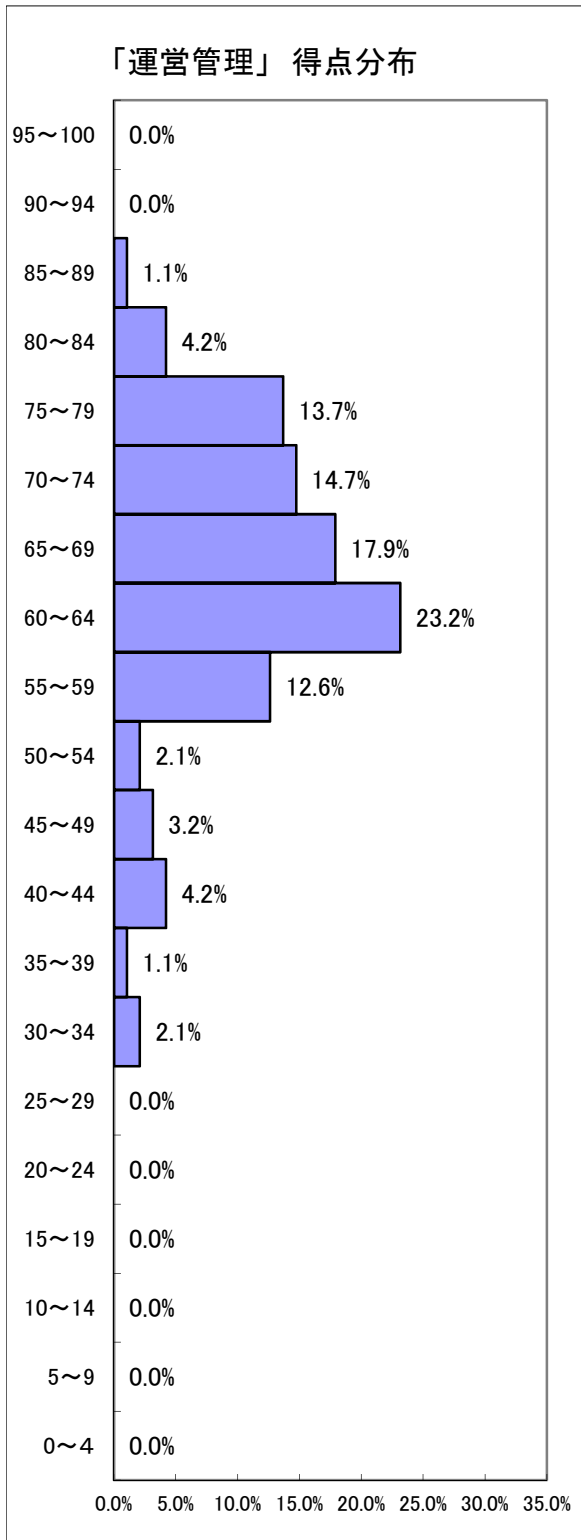
本科目は、量の面から見ると設問数は41設問と昨年と同数であるが、難易度は昨年度よりやや難化傾向といえるであろう。難易度を決める要因の一つとして、選択肢の数がある。一般的にいうと、4肢択一形式と5肢択一形式の問題を比較すると後者の方が難易度が上がる。本年の出題状況を見ると4肢択一形式と5肢択一形式の設問の比率が20対21になっており、昨年の22対19よりも5肢択一形式の出題数が増加している。

出題の分野別内訳をみると、戦略論が13設問、組織論が14設問、マーケティング論が14設問であり、昨年度と変化はない。戦略論、組織論は、比較的判断しやすい問題、オーソドックスな論点を確実に得点し、マーケティング論で得点を稼ぐことができたかがポイントとなるものと思われる。

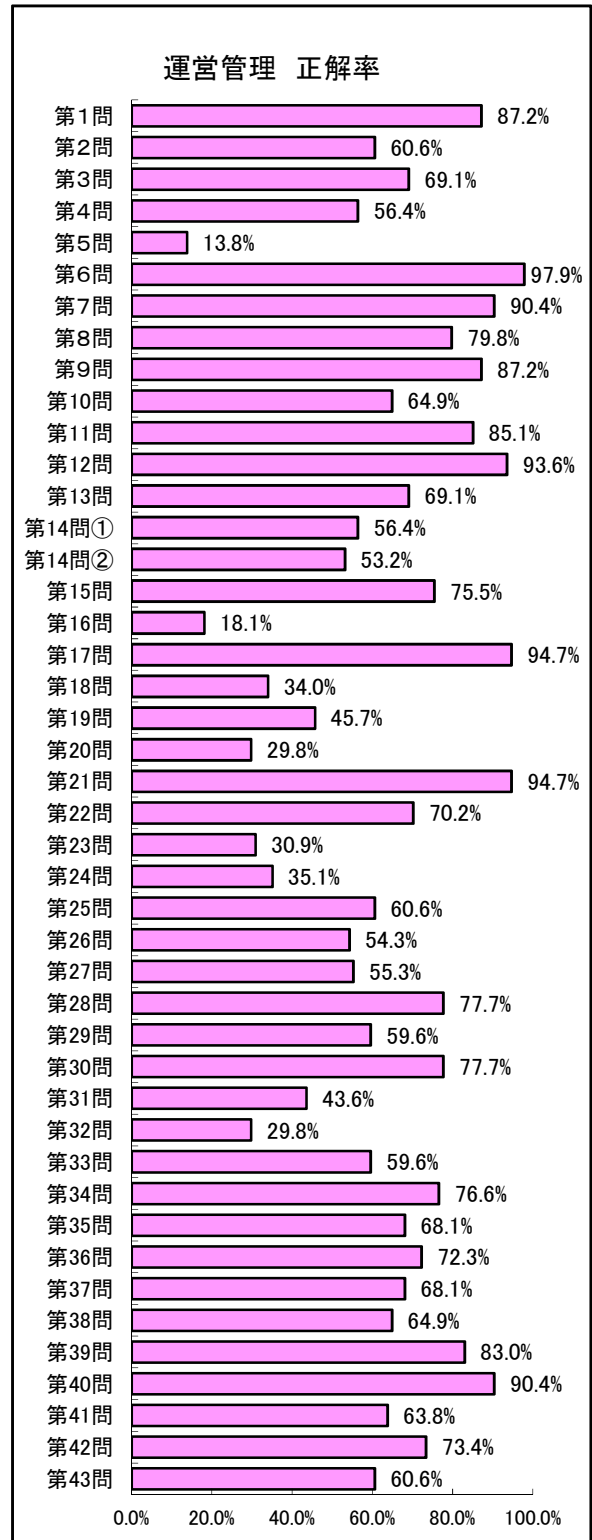
D 運営管理

平均点：64.3点、標準偏差：10.8

■ 得点分布



■ 設問別正解率



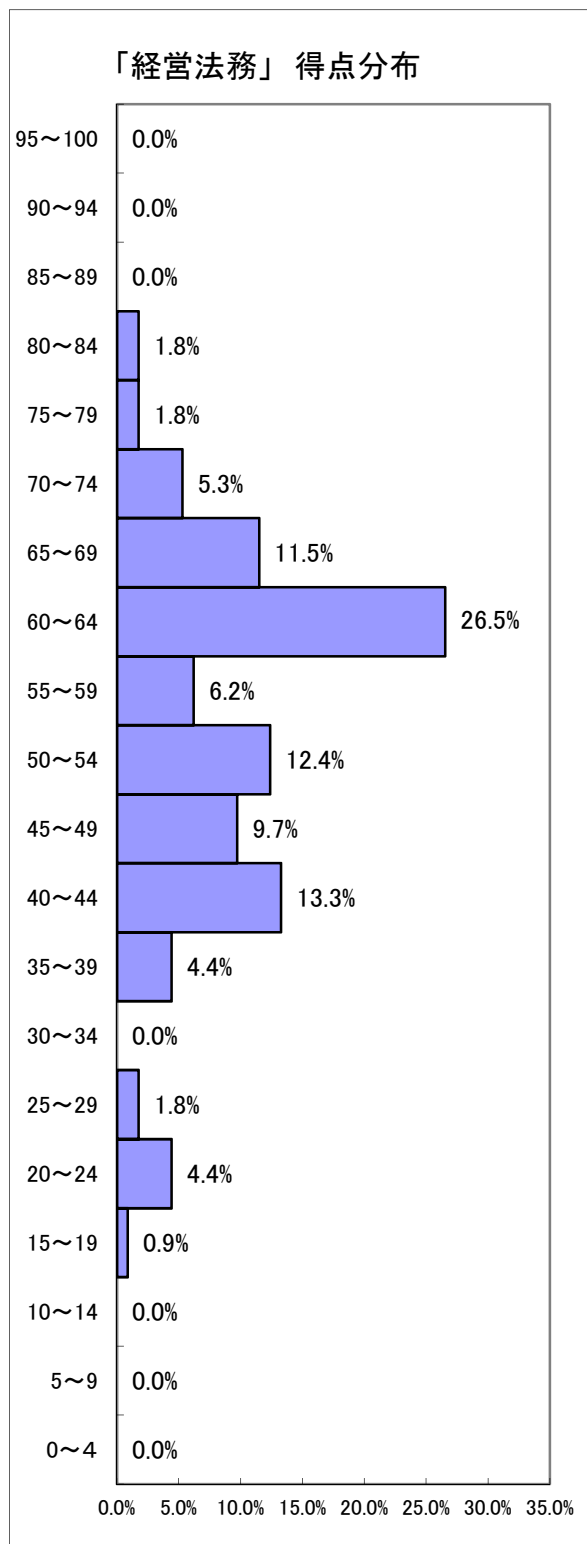
《コメント》

令和元年度の本試験は、運営管理44問（昨年44問）のうち、22問が生産管理（昨年22問）、22問が店舗・販売管理（昨年22問）であり、例年通り偏りのない出題内容であった。また、5肢択一の問題が生産管理2問（昨年1問）、店舗・販売管理17問（昨年13問）であり、さらに、昨年に引き続き、計算関連の問題が10問（生産管理分野8問、店舗・販売管理分野2問）と多かったことが特徴である。また、単なる知識や特徴に関する問題だけでなく、昨年同様に、その場で内容を把握し、解答を導く問題や時事的な問題もあったため、制限時間いっぱいを使って解かれた方も多かったと思われる。例年とは異なり店舗・販売管理の難度が高かったが、全体としては昨年と同様の標準レベルであり、基本事項に関する問題において確実に正解できたか得点が左右されると思われる。

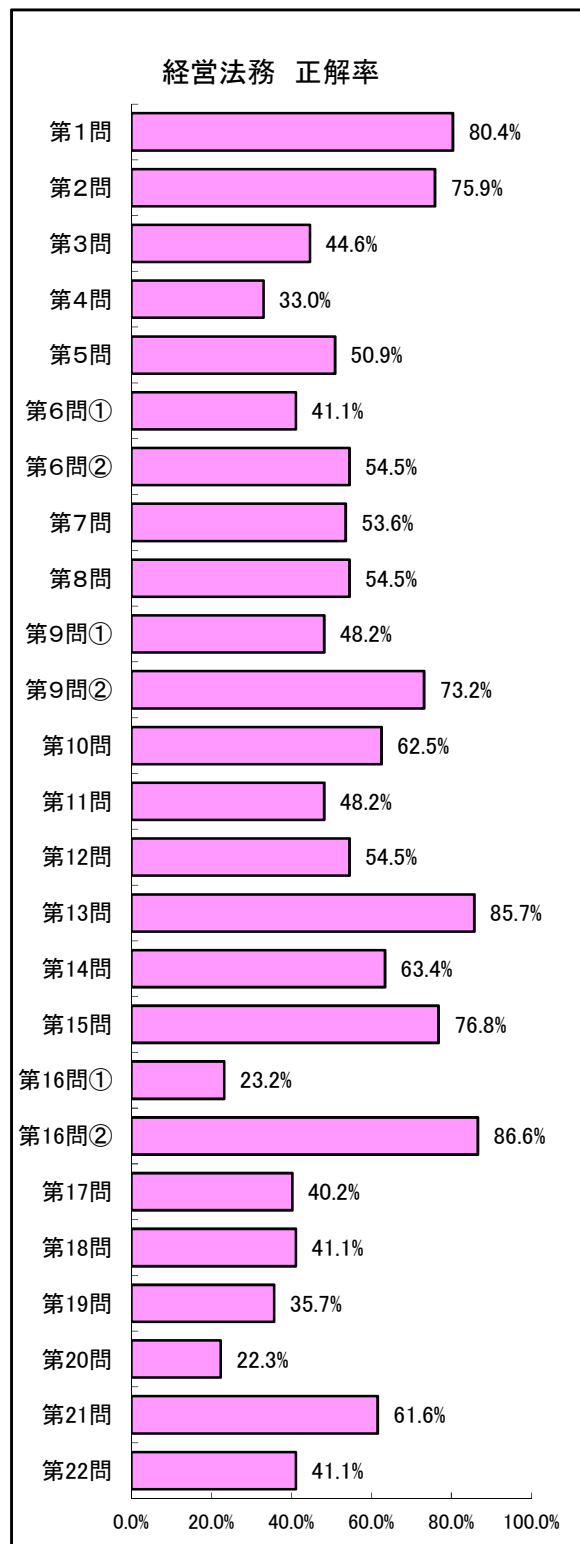
E 経営法務

平均点：54.2点、標準偏差：13.6

■ 得点分布



■ 設問別正解率



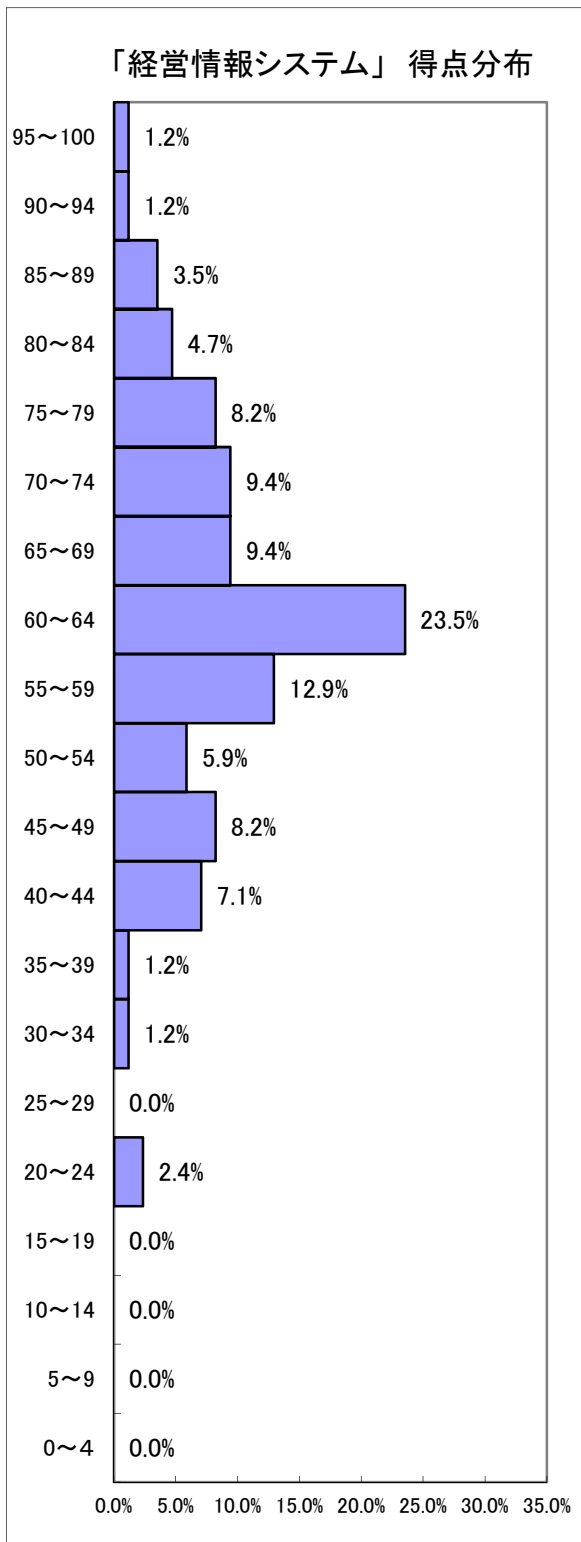
《コメント》

令和元年度の本試験は、問題数は22題（昨年23題）、設問数は25問（昨年25問）であった。昨年度よりも問題数は減少したものの、設問数は同じであり、例年並みのボリュームといえる。出題内容は、資本市場へのアクセスを含む会社法関連が7問（昨年8問）、知的財産権関連が8問（昨年9問）、下請代金支払遅延等防止法を含む民法・その他が10問（昨年8問）であった。こちらも例年どおり、偏りのない出題傾向であった。全体的な難易度については、出題論点を考慮すると、昨年度よりも易くなっているが、昨年度の難易度が高かったことを勘案すると、結果として例年並みの難易度であったと思われる。

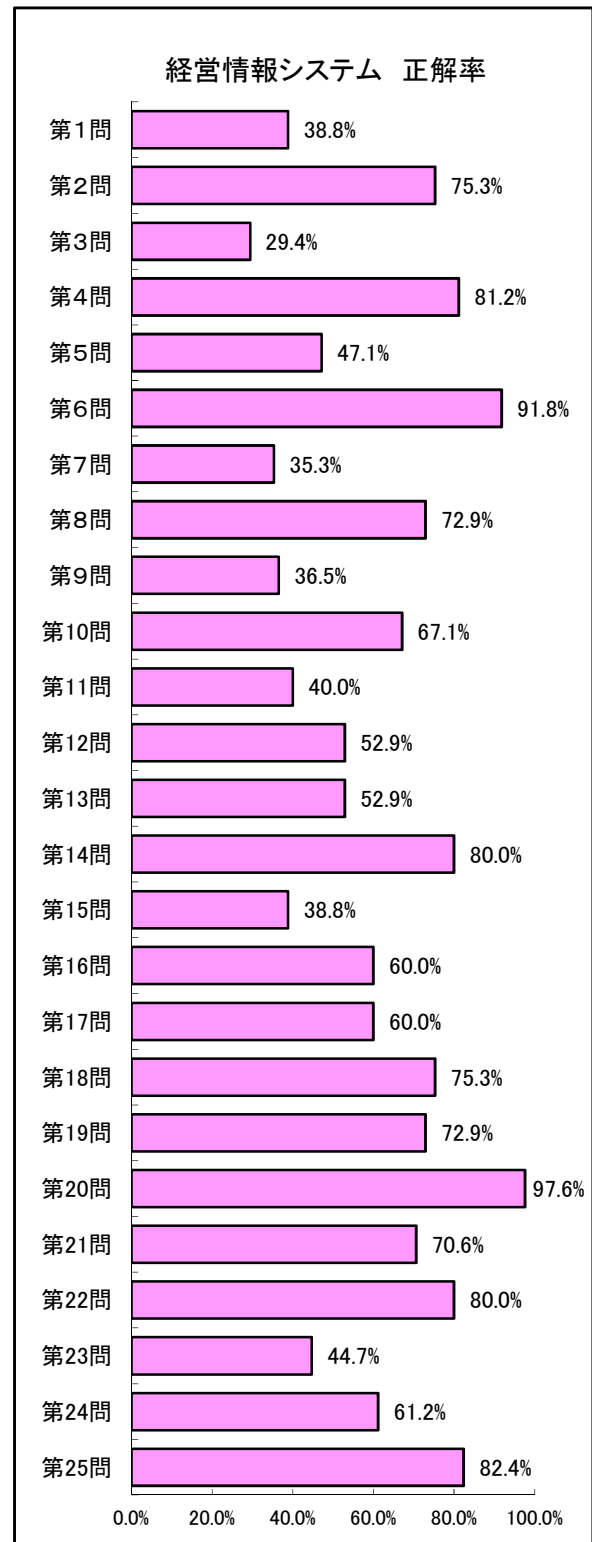
F 経営情報システム

平均点：61.8点、標準偏差：14.3

■ 得点分布



■ 設問別正解率



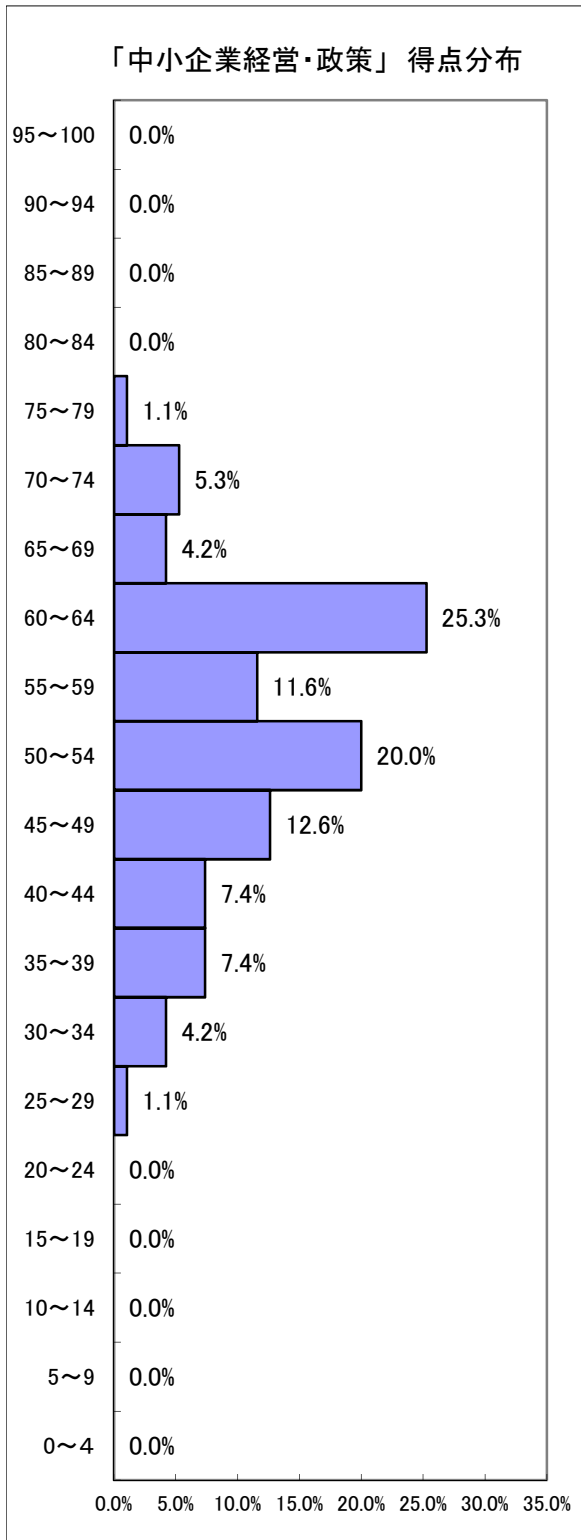
《コメント》

令和元年度の本試験は、近年の設問数と同じで25問であり、25問中1問以外は、4肢択一の問題であった。昨年度に引き続き、基本的な問題や、正解を絞り込むことができる問題も多かった。今年度は、昨年並みもしくは昨年よりやや難度が下がったと思われる。また、ここ数年、「aとb」のような組み合わせ問題の出題はなかったが、今年度は5問出題されたのが特徴である。さらに、前半（第1問～第13問）が情報通信技術に関する基礎的知識、後半（第14問～第25問）が経営情報管理の出題で、全体として標準レベルであったと思われる。そのため、合格ラインの60点を確保することができた受験生は多かったと思われる。

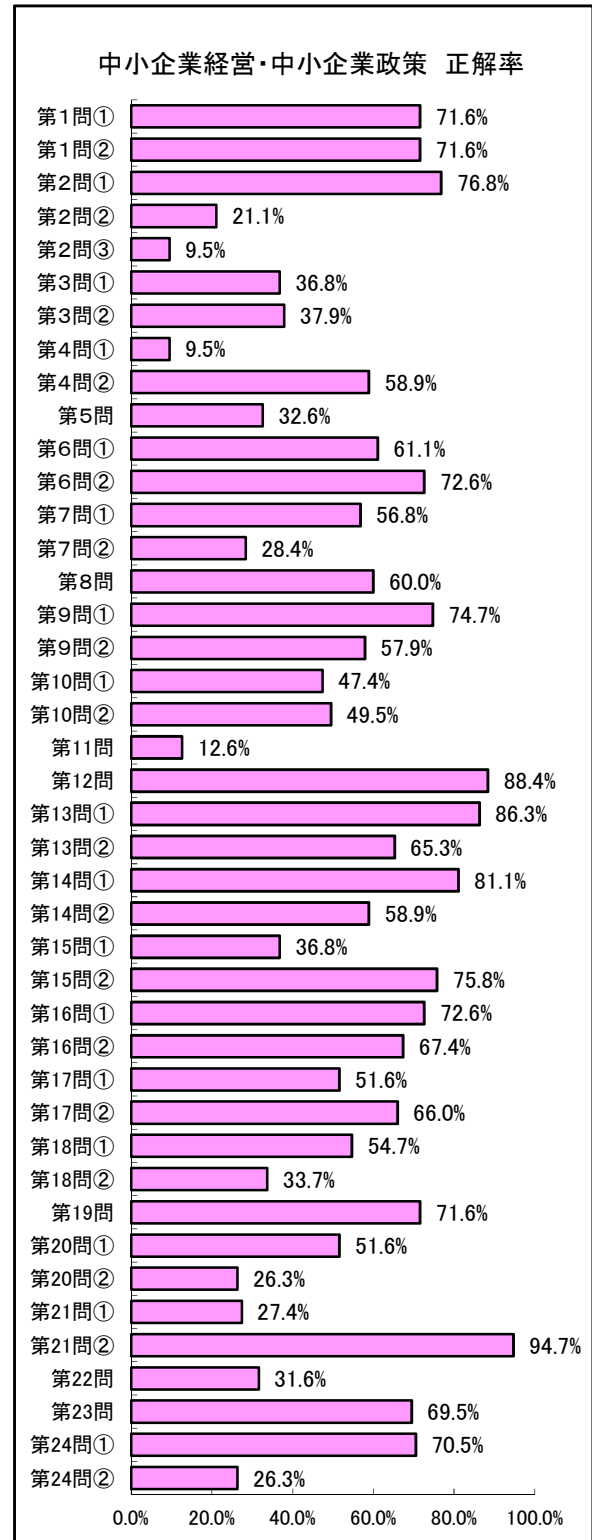
G 中小企業経営・中小企業政策

平均点：53.6点、標準偏差：10.7

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》

令和元年度の本試験は、例年通り42問の設問数であった。出題内容別には、中小企業経営が21設問、中小企業政策が21設問と、こちらも例年通りであった。全体的な難易度は、中小企業経営は例年よりもやや難しく、中小企業政策は例年並みのレベルであったと考えられる。

中小企業経営は、21設問のうち、すべての設問が『白書』からの出題であった。このうち、『2018年版中小企業白書』からの出題が16設問であり、『2018年版小規模企業白書』からの出題が5設問であった。

中小企業政策は、21設問のうち、一部は出題されたことのないテーマも取り上げられているが、概ね例年通りの頻出テーマが取り上げられている。合格点をとるには、中小企業政策で、これまでに出版されたテーマをいかにミスせずに得点できたかがポイントとなるだろう。